たかまろ通信 第8号

2005.4.28
討議資料

発行
福岡たかまろ後援会
TEL0952-30-0555
e-mail takamaro@takamaro.jp
ホームページ:www.takamaro.jp

平時は有事のごとく、有事は平時のごとく

「たかまろ通信」八号では、災害について特集します。三月二十日、福岡県西方沖を震源とするマグニチュード7・0の地震が発生し、佐賀県を含む九州北部で強いゆれを観測しました。自然災害の中でも、台風とは違って九州ではほとんど体験したことのない大地震。今回の地震を教訓に、日頃から備えをしておくことの大切さを痛感しました。

「平時は有事のごとく、有事は平時のごとく」。日頃から、災害も含めたあらゆる事態を想定した備えを怠らず、ひとたび有事になれば冷静に対応することが必要になってくると思います。行政、民間を問わずもう一度、日頃の災害対策について考えてみる必要がありそうです。

特集

災害対策「福岡県西方沖地震を受けて」

～いざというときに、どう対応するべきか～

特集

災害対策

『福岡県西方沖地震を受けて』

～いざというときに、どう対応するべきか～

三月二十日、十時五十三分、福岡県西方沖を震源とするM7・0の地震が発生しました。県内でも、みやき町旧北茂安地区で震度6弱、上峰町、七山村で震度5強、その他多くの地域で震度5弱を観測しました。その後も、断続的に余震が続いています。福岡、佐賀両県で震度5以上を記録したのは、統計のある一九二六年以来初めて。被害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げます。

ひび割れた道路（小千谷市）

地震の被害状況

福岡の玄界島をはじめとして北部九州各地で被害が出ました。一人が亡くなり五百名以上の負傷者が出ました。佐賀県でも、三月三十一日時点で十四名の方が軽傷を負い、百二十一棟の家屋被害、七十六の文教施設被害、水道管や道路、港湾、庁舎などの公共施設被害、事業所被害など合わせて約二億七千三百万円もの被害が出ています。

そのとき、私は

地震の瞬間、私は震度5弱を記録した鳥栖市内で車に乗っていました。地震の瞬間、大きく揺れましたが、何が起こったのか瞬時には分かりませんでした。しかし、建物から人が次々と出てきている様子を見て、その不安な面持ちから地震を察しました。地震から五日前にみやき町の千栗八幡宮で開催されたお粥祭りで、お粥に生えたカビからその年を占う中に、地震については「大いに見ゆ」（＝大いにありそう）とありましたが、まさかこんなすぐに起こるとはと呆然としました。

その後、携帯電話で連絡を取ろうと試みましたが、繋がりません。携帯電話のメールを使用することまで頭が回りませんでしたが、災害時の連絡手段の確保というのは大きな課題だと言うことを痛感しました。その後の予定をキャンセルして、震度の大きかった鳥栖市やみやき町の庁舎に赴き被害状況を確認。それから、鳥居が倒れた鳥栖市原町の菅原神社の鳥居などを見に行きました。夜には、各首長の方に電話で状況をお聞きしました。

転倒した菅原神社の鳥居（鳥栖市）

行政の対応

行政の対応も迅速なものでした。政府は官邸対策室を、佐賀県も直ちに古川県知事を本部長とする災害対策本部を設置しました。また、各市町村も対策本部を設け、被害状況の把握につとめました。その際には、消防や地元の消防団も貢献。自衛隊も、派遣要請に対応すべく県庁に担当を派遣しました。佐賀県では自衛隊の災害派遣はなかったものの、目達原の駐屯地からは、救援活動のためのヘリコプターが福岡に向かいました。

佐賀県では、約三割の職員が自主的に登庁。そのうち約二割は地震三十分以内に、約四割は一時間以内に登庁されるなど素早い対応でしたが、通信が制限される中での連絡体制構築という課題も見つかりました。

佐賀県の危機管理・報道監の川崎俊広さんによると「被害情報と併せて、ここは安全だという情報を流すことも重要です。佐賀県では、ホームページ（http://www.pref.saga.lg.jp/）で逐次状況を発表しています。」とのことなので、テレビやラジオなどと併せて活用してみてはいかがでしょうか。

新潟県中越地震

震災の爪痕残る、被災地を見る。

新潟県に赴任している高校剣道部の同期のお見舞いも兼ねて、二月二十七日から三月一日まで、新潟県中越地震の被災地を見てきました。新潟県の中越地方でM6・8の地震が起こったのは昨年の十月二十三日のことです。死者四十名、四千五百名を超える負傷者が出ました。

新潟空港から、最初に向かったのは友人が住んでいる長岡市。震度6弱を記録し被害も出ましたが、震災後四ヶ月あまりたった今では震災の面影を見ることはあまりありませんでした。しかし、震度7を観測した川口町、震度6強を観測した小千谷市には、今でも多くの被害の爪痕が残っていました（山古志村には、まだ立ち入ることもできませんでした）。

所々で道路はひび割れ、あちこちの家屋には、黄色（要注意）や赤（危険）の張り紙が貼ってあります。商店街も修復中のところ、再建する余力もなくシャッターが閉まったままのところなどが散見されました。被災地は豪雪地帯。仮設住宅を見に行きましたが、雪かきをする老人の姿などが目につきました。工場団地内に設けられた仮設住宅は、市街地からも距離があり、買い物にも不便そうです。早く、自宅に戻ることができる日が待ち遠しそうでした。

雪の中、店舗を修復する様子

仮設住宅の間は身長以上の積雪

閉じたままの商店

至る所に「危険」の貼り紙が

復興にむけ、力を結集!!

そんな中、小千谷市の至る所に「立ち上がれ 団結小千谷」と記されたポスターやのぼりを見ることができました。復興に向けた前向きな力が結集されつつあることが見て取れ、心から応援をしたい気分になったものです。

街中で見るポスター

この視察を通じて感じたことは、震度が1違うだけで、こんなに被害に差が出るものなのかということです。震度5強や6弱の地域と比べて、6強や7の地域は明らかに被害が甚大でした。新潟の場合は直下型地震だったこと、何度も震度5～6クラスの余震が続いたことなどが被害を増大させたと言うこともありますが、私たちは福岡県西方沖地震の震度がもう少し強かったら、もっと大きな被害が出たであろうことを肝に銘じなければいけないでしょう。

がけ崩れでふさがった道路（山古志村）

過去の震災から学ぶ

十年前の平成七年一月十七日、阪神淡路大震災が起こりました。当時は、私はまだ大学生でしたが、朝テレビで中継中の映像を見て我が目を疑ったことを鮮明に覚えています。死者・行方不明者六千人を超える大惨事。この九割近くの方々が、建物の倒壊による窒息、圧死などでした。

そして、防災の日のルーツともなった、大正十二年九月一日の関東大震災では、十万人にもおよぶ死者の九割以上は火災が原因でした。記憶に新しい、スマトラ島沖地震では、三十万人近い犠牲者の多くが津波被害でした。つまり、地震は二次災害による被害が大きいのです。

大地震が起こったら

地震が起こったら、まず火を消すこと。そして、マンションや団地ではドアや窓が開かなくなることがありますので、戸を開けて出口を確保し、それから机の下などの安全な場所に潜り込みましょう。

負傷をして救助されたときのことを想定して、緊急連絡先の他に血液型やアレルギー、持病やホームドクターなどまで記入したSOSカードを身につけておくことや、非常用品(下図参照)を家に置いておくことも大切です。家具は、転倒しないように固定すること。災害時の避難場所も確認しておきましょう。

災害に備える

天災は防ぐことはできませんが、対策を練ることで被害を最小限に食い止めることができます。そのために、予測・被害軽減策・応急対策・復興計画などの準備が必要です。

突然起こる災害もありますが、自然条件や、兆候などからある程度の予測はできます。そして、被害軽減のために建物の耐震補強、不燃化、公園の整備、道路拡幅などにより物理的な安全を高めること。応急対策として、マニュアルの作成や防災訓練、食料等の備蓄、救出工具などの整備が求められます。そして、復興のための支援策や復興手順などを策定しておけば、いざというときに迅速に対応できるというわけです。

これを、市民、地域・企業団体、自治体といったレベルで整備しておくことが大切です。そして、ひとたび有事には、それぞれが役割を担って一体となって取り組むことが求められているのです。

減災という概念

地震対策は、今転換期を迎えているといいます。インフラ整備で被害を防ごうとしても限界がある中、今ある設備で災害を減ずるためにはどうするかといった「減災」という概念です。

堤防や、防波堤などのインフラ整備に頼るのが「防災」のイメージだとすれば、事態を想定し備えを怠らない「減災」の主役は人間です。そしてそれは、あなた方一人一人なのです。いつでもその主役をこなす、心構えと準備をしておいて頂ければと思います。

■非常備蓄品

地震後の生活を支えるもの、一人3日分程度。

【停電に備えて】
懐中電灯・ローソク（倒れにくいもの）
【ガス停止に備えて】
簡易ガスコンロ・固形燃料
【断水に備えて】
飲料水（ポリ容器などに）※１人１日3リットル目安

■防災準備品

地震直後の火災や家屋倒壊に備えるもの。

【火災に備えて】
消化器・三角消化バケツ・風呂の水の汲み置きなど
【避難・救出に備えて】
おの・ハンマー・スコップ・大バール・防水シート・のこぎりなど

■非常時持出品

両手が使えるリュックサックなどに、避難のとき必要なものをまとめて、目につきやすい所に置いておく。

飲料水・携帯ラジオ・衣類・履物・食料品・マッチやライター・貴重品・懐中電灯・救急セット・雨具（防寒）・チリ紙など生活に欠かせない用品

マローズカフェ Vol.3

『佐賀と唐津の距離』

浦郷 豊太

私は学生時代を『財団法人 久敬社塾』で過ごした。

『財団法人 久敬社塾』とは旧唐津藩主の小笠原長行(久敬社の創設者)が明治十一年十一月四日に東京・千代田区・番町の屋敷に『久敬社』という集まりを持ち、明治十九年には『久敬社塾』として発足した『塾』という名の学生寮である。

数箇所の移転を経て、現在は神奈川県麻生区にあり唐津市出身を中心とした東京の大学に通う大学生が『塾生』として生活をしている。

一方、佐賀出身の学生の為には『財団法人 佐賀育英会 松濤学舎』が東京都小金井市にある。

その『久敬社塾』に私の同期で、佐賀西高校卒業のバリバリ佐賀弁を話す佐賀んもんの『T』が入塾してきた。物好きな彼は『松濤学舎』には行かず、わざわざ『久敬社塾』にやって来た。当然、新歓コンパで怖いバンカラな先輩達に捕まり、『お前は佐賀んもんかぁ~』、『佐賀んもんが何ばしに来たとか~』と詰められたのであった。それにもめげず、よくも悪くも数々の伝説を残し、ついに彼は『久敬社塾』の塾長に上り詰めたのであった。

彼はよく言った。「唐津はくんちがあるから、よくまとまっている」と。だが私は言う。「唐津はまとまっているからこそ排他的だ」。『鎖国の中で鎖国をしていた鍋島藩』と言うが、実際まだ『鎖国』をしているのは唐津の方なのかもしれない。彼のおかげで私自身の視野が広まった。

今回私は佐賀市と唐津市の『精神的な距離』について述べたい。どの県にもあるこの地域の問題。青森県(津軽藩・南部藩)、長野県(長野市と松本市)、福井県(嶺北・嶺南)が有名だ。

佐賀県の県民性について本で調べると『質素倹約』『葉隠』『異風者(いひゅうもん)』といった単語が並ぶ。また佐賀の偉人について調べると『佐賀七賢人』(鍋島直正・大隈重信・江藤新平・副島種臣・佐野常民・島義勇・大木喬任)と言われる方々が紹介される。

唐津市出身の私にはあまりピンとこない。歴史的な背景から言えば、佐賀の鍋島藩は外様、唐津は譜代だからである。実際、唐津出身の人に「出身はどこ?」と聞くと「唐津です」と答え、まず「佐賀県です」とは答えない。

厳木・多久あたりの山を越えると方言・文化が違ってくるが、現在我々は同じ佐賀県民である。小・中学生の頃から学校・学年・クラス同士で親睦・交流を深め、お互いがもっと知り合うよう、一緒に遊んだり、お祭りに参加したり、語り合う時間を作ってみてはどうか?

「財団法人 佐賀育英会 松濤学舎」
http://www.shoutou.com/shoutou/と
「財団法人 久敬社塾」
http://www.geocities.jp/feather_karatsu/index.htmも交流を持ってみてはどうか?

佐賀市出身の『T』と唐津出身の私の息子は同じ年の生まれだ。まだまだ言葉が交わせない程幼い二人だが、佐賀と唐津の枠を超えて共に大いに語り合い、佐賀県と日本の発展を目標に目指して欲しい。

ワザワザ唐津人ばかりの『久敬社塾』に来て、福岡資麿氏との縁をつないでくれた『T』に御礼を申し上げたい。「たかまろー、日本」「たかまろー、佐賀」「たかまろー、私たち」福岡資麿氏の活躍を期待する。

移動目安箱

このたび、「移動目安箱」と銘打った自民党の政党活動車が完成しました。順次、各地を回らせて頂きます。有権者の声を聞くと、自民党に対して与党としての政権担当能力を評価する一方、身近に感じられないといった不満を聞きます。自民党も特定の団体に偏ることなく、広く一般有権者から意見を伺い、必要なことについては実現のために全力で取り組んで参ります。

気軽に手をあげてください。車を停めて、ご要望を伺います。

「ニューリーダー育成塾」

自民党佐賀県連青年局・Club Liberty主催

四月十六日、自民党佐賀県連青年局・クラブリバティ主催のニューリーダー育成塾が開講しました。

四回にわたって開かれるこの勉強会、一回目は、内閣府特命担当大臣（科学技術政策、食品安全、情報通信技術担当）の棚橋泰文代議士による「我が国の科学技術」と題する講演と、日本経済新聞コラムニストの田勢康弘さんによる「誰が日本を救うのか、私の指導者論」と題する講演が行われました。

棚橋大臣は、小泉内閣で力を入れている科学技術立国に向けての取り組みについて大変分かりやすくお話し頂きましたし、田勢さんは命をかけてでもやるという「リーダー」としての気概、今の世界情勢をみるキーワードとしての「宗教」、日本における教育の大切さなど参考になるお話しをされました。

ニューリーダー育成塾という名にもあるように、明治維新期のように佐賀の若手から時代の波を起こすことができればと思います。

第3回たかまろう政経フォーラム

二月五日、佐賀市民会館大会議室で第三回たかまろう政経フォーラムを開催致しました。当日は、お忙しい中約百五十名の方々にご参加頂き、慶應大学商学部教授の清家篤先生に「豊かな高齢社会を目指して」と題してご講演頂きました。

少子高齢化が急速に進む日本社会の中で、働く意欲と能力を持った高齢者を労働力として活用しない手はない。そのために企業の雇用のあり方や、社会保障政策を改める必要性について示唆に富んだお話を頂きました。

第1回たかまろうゴルフコンペ

三月二十三日、花祭ゴルフ倶楽部で第一回たかまろうゴルフコンペを開催致しました。当日は、朝から生憎の雨模様でしたが、百九十四名もの方にご参加頂きました。午後からは天候も回復し、楽しい中にも熱戦が繰り広げられました。十三番のショートホールでは、末永さんがホールインワンを達成。大会に花を添えて頂きました。会場を移して行われた表彰式にも多くの方々にご参集頂きました。

参加して頂いた方に心よりお礼申し上げますと共に、連絡等の不備によりご参加頂けなかった方々にお詫び致します。

携帯電話からもホームページをご覧いただけます

このたび、携帯電話からご覧いただけるホームページをリニューアル致しました。

毎日更新している「たかまろ活動報告」を写真入りでご覧いただけるほか、たかまろソングを「着メロ」としてダウンロードできます。

是非、一度アクセスしてみてください。

着メロもじわじわと普及することを夢見ています。

■ 携帯電話操作方法 ■

■au ……エーユー

1.待受画面で E ボタンを押してEZwebメニューへ
2.「URLダイレクト入力」を選び、『OK』
3.『入力』を押してURLを入力し『確定』たかまろホームページへアクセスすることができます。

URL:http://www.takamaro.jp

■DoCoMo ……ドコモ

1.待受画面で ボタンを押してiモードメニューへ
2.『インターネット』を選び『OK』
3.URL入力を選び『OK』
4.『編集』を選びURLを入力して『確定』たかまろホームページへアクセスすることができます。

URL:http://www.takamaro.jp

■vodafone ……ボーダフォン

1.待受画面で j ボタンを押してメニューへ
2.『ウェブ』を選び『OK』
3.『インターネットアクセス』を選び『OK』
4.『新規』の項目を選択し、URLを入力して『接続』

URL:http://www.takamaro.jp

■QRコード……

1.［MENU］ボタンを押して、「MENU」画面を表示する※
2.「ツール」を選んで、［決定］ボタンを押す
3.「バーコードリーダー」を選んで、［決定］ボタンを押す
4.上のQRコードにカメラを合わせる
5.端末の画面いっぱいに表示されるようにする
6.自動的に認識される
7.「読み取りデータ」が表示されれば、成功!

さくらマラソン

四月三日、第十六回二〇〇五さが桜マラソンに参加しました。私は、三ｋｍの部にエントリーし、記録は十五分五十五秒。日頃の運動不足から後半足が動かなくなりました。ご年配の方が十ｋｍの部やハーフマラソンで力走されている姿を見ると、基礎体力をつけなければいけないことを痛感しました。

今回で五回目を迎えた「たかまろクッキング」。

料理が趣味のたかまろが、男性でも簡単にできるお料理をご紹介します。

今号は、「挽肉と納豆炒めかけご飯」。納豆をひと味違った風味でお召し上がりいただけます。お試し下さい。

作業風景

「挽肉と納豆炒めかけご飯」

● 材　料 ●（4人分）

- 納豆……200ｇ
- 豚挽肉……300ｇ
- 長ネギ……１本
- 生椎茸……３枚
- サラダ油…小さじ１
- ごま油……少々
- 醤油……大さじ１
- 塩・こしょう……少々
- おろししょうが……少々
- 青ネギ（小口切り）‥少々
- レタス……数枚
- コーンフレーク……少々（お好みで）
- 白ご飯……適量

①長ネギ、椎茸をみじん切りにする
②フライパンにサラダ油をしき、豚肉を入れてほぐしながら炒める
③豚肉の色が変わったら、みじん切りにした長ネギ、椎茸を入れて炒める
④納豆を加えて炒め合わせ、おろし生姜、醤油、塩、こしょうで味付けをし、ごま油で風味を付ける
⑤白ご飯の上に細切りにしたレタスを散らし、挽肉と納豆炒めをのせ、お好みでコーンフレークをまぶす。青ネギの小口切りを乗せてできあがり。

第1回

たかまろう文化フォーラム開催

演題「おもてなしの極意」

講師 荷見（はすみ） 三七子（みなこ）先生

【プロフィール】

1942年（昭和17年）9月　東京都生まれ
1965年（昭和40年）3月　青山学院大学文学部英米文学科　卒業
4月　日本航空株式会社　入社（第35期生スチュワーデス）
1981年（昭和56年）　初の女性パーサー
1984年（昭和59年）　客室常務管理職
1989年（平成元年）　客室乗員室長
1996年（平成８年）　女性初の客室乗員部長
1998年（平成10年）5月　社団法人日本女性航空協会　理事
1999年（平成11年）4月　女性初の客室本部副本部長

※総飛行時間14955時間、その間、湾岸戦争難民救難フライトや、ベトちゃん・ドクちゃん同乗フライト、フィリピン・ゲリラ誘拐事件等の特別レスキューフライトに乗務。

※JAL客室乗務員7,000人の女性リーダーとして、またキャビンクルーの地位向上とともに重ねたキャリアを活かし、多方面での雑誌のインタビューをはじめ、講演会の講師、後進の指導で活躍中。

2001年（平成13年）6月　財団法人日航財団　常任理事
2002年（平成14年）　日本マナー・プロトコール協会　理事
2003年（平成15年）4月　椙山女学園大学　客員教授
2004年（平成16年）6月　財団法人日航財団　特別顧問　就任
9月　財団法人日航財団　退職
10月　株式会社テレコメディア　取締役

【著書】「女性が社会で成功する法―大きな気配り、小さな気配り」（2001年4月主婦の友社刊）

日　時　**平成17年5月21日（土）**
13:30～（約1時間半程度）

場　所　**パル21**
佐賀市鍋島森田99－1
Tel.31－2161

会　費　**500円**

いろんな分野から先生をお招きし、私も皆様方とともに「高まろう」という試みで開催している**「たかまろうフォーラム」**。これまでの「たかまろう政経フォーラム」に加えて、このたび「たかまろう文化フォーラム」を開催することとしました。

第１回目は2005年５月21日（土）。講師は、荷見三七子先生。意外と知らないマナーや、人づきあいの秘訣などについてお話し頂きます。

おわりに

今回、予定よりも若干発行が遅れました。申し訳ありません。理由は二つあります。一つは、災害について特集をしようと構成を考えていたら、福岡県西方沖地震が起こってしまったために、その内容を盛り込む必要があると判断したため。そしてもう一つが、ほぼ原稿を書きあげた時点で、データが壊れてしまったためです。

これは、本当にショックでした。夜なべをしながら、かなりの時間をかけて書き上げた原稿が、一瞬で無くなってしまうのですから。思い出しながら書こうとしても、なかなか同じようにはかけません。データのバックアップをとっておかなかったことを、猛反省していますが、時間は元に戻ってはくれません。

しかし、考えてみるとこれも危機管理の一環。今や何事もパソコンで作業をする中で、パソコン本体に保存していたデータが消えてしまったり、壊れてしまったりすることはままあることです。私の周辺でも、そのような方々を何度となく見てきました。しかし、まさか自分のパソコンがそのようになるとは思っていなかったため、防止策をとらなかったことが結果的に大きな時間と労力のロスという損害を生み出しました。

まさに今回の地震もそう。「まさか佐賀では起こらないだろう」と備えをしていなかった人が、多いのではないでしょうか？あとから悔やんでも仕方がありません。私自身、地震の教訓、パソコンの教訓を踏まえ、日頃からあらゆる事態を想定することの大切さを痛感しました。

サポーター募集中です!!

皆様方のお支えがないと日々の活動ができません。
たかまろサポーターズ・クラブの会員を募集しています。

年間2000円から（千円単位）受け付けております。
サポーターの方には「たかまろ通信」を郵送いたします。
（郵送先は、電話もしくは、メール、ハガキ等でお知らせください）
知人等にも是非お声がけください。よろしくお願い致します。

振込口座
佐賀銀行 県庁支店　普通　1480907
「たかまろう21」福岡 資麿

このたび、振込用紙もご用意致しました。必要な方はお申しつけ下さい。

※この口座は公職選挙法により個人献金しか受けることができません。
※企業での献金につきましては、別途届出団体にて受けておりますので、後援会事務所にご一報いただければと存じます。

発行／福岡たかまろ後援会　※いろんなご意見、ご案内を是非お寄せください。

佐賀事務所
〒840-0804佐賀市神野東3丁目2番13号
TEL0952-30-0555
FAX0952-30-0700
e-mail takamaro@takamaro.jp

鳥栖事務所
〒841-0052鳥栖市宿町1436
TEL0942-82-3801
FAX0942-82-3345

福岡たかまろホームページ：www.takamaro.jp（毎日更新中）

この印刷物は100%再生紙及び大豆油インキで印刷されています。